Ⅴ．
生活支援ニーズと生活支援サービス

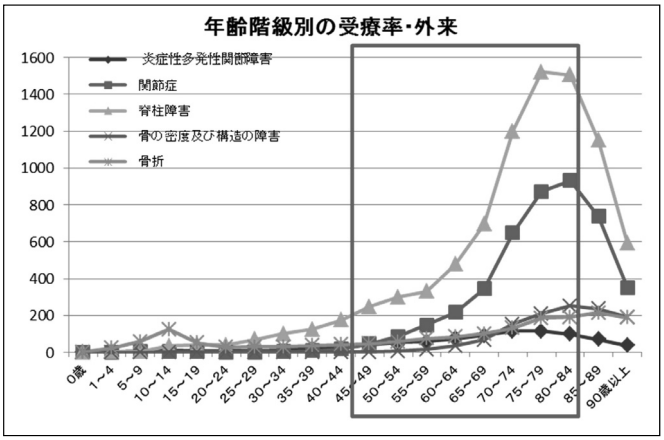
1

１．高齢者の生活支援ニーズ

2

（1）日常生活にある高齢者の不自由さ

・ 加齢に伴う膝痛、腰痛、体力の低下から生じる症状



出典：厚生労働省患者調査

・「代わってもらえるなら助かる」
「あると助かる」

3

参　考

女子が最もやりたくない家事ランキング！
「1位　掃除」

1位　掃除　47.4%　　（理由：きりがない、腰が痛くなる　など）

2位　料理　33.9%　　（理由：献立を考えるのが大変　など）

3位　洗濯　14.9%　　（理由：干すのが大変　など）

※4位以下省略、複数回答可

若い人がそうなら、高齢者であればなおさら。。。

※マイナビウーマン調べ（2014年6月21日～7月4日にWebアンケート。有効回答数289件。働く女性）

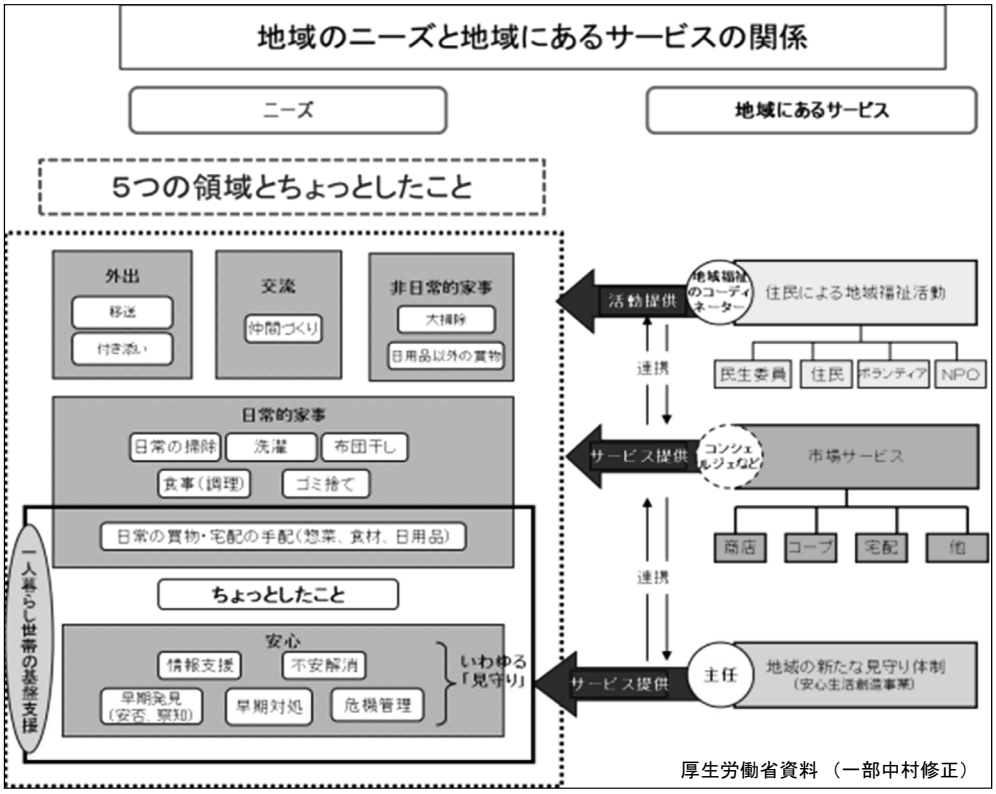
4

(2)生活支援ニーズの内容

- ５つのこと
  「安心」が基盤
  「日常的な家事」
  「外出」
  「交流」
  「非日常的な家事」
- ちょっとしたこと
  日常生活で不意に起こること

(注)厚生労働省社会・援護局地域福祉課資料では、「基盤領域」「日常領域」「移動」「交流」「非日常領域」「ちょっとしたこと」としているが、ここでは、テキスト本文との関連から、それぞれ「安心」「日常的な家事」「外出」「交流」「非日常的な家事」「ちょっとしたこと」と表記した。

5



厚生労働省資料 (一部中村修正)

6

（3）親族や行政、専門職のニーズ

・ 周囲にいる人が、高齢者の安全確保を担保したいとした時のニーズ
＝高齢者の周囲の人々の「あると助かる」ニーズ

7

虚弱高齢者の生活課題

物の移動と自分の移動
と
自分と周囲の安心

8

安心の確保

- 信頼できる人が定期的あるいは頻度高く関わり、いざという時には連絡すれば助言やサポートが得られるという安心感をどうつくるか

例）地域のつながりづくり
　地域のフロントサービス
　巡回訪問、双方向の連絡体制

9

（4）生活支援ニーズへの対応方法

1. ホームヘルパーや訪問ボランティアがまとまった時間枠の中で家事をしながら、話し相手をし、安否確認をする包括的な方法

2. 配食、移動、買い物、掃除サービスなどの単品サービス

10

二つの方法の特徴

それぞれの方法の特徴（長短）を踏まえる

包括的な方法

○　その場の即応性、柔軟性、補完性にすぐれる

○　できることも含めての代行になりやすい、利用者の要求水準の個人差大、要求が上がりやすい

11

単品サービスで対応する方法

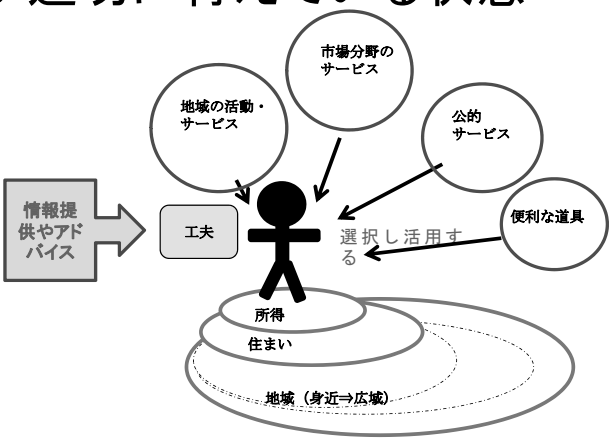
○　配食、移動、買物、掃除等を単品で提供
話し相手や見守りを付加することも多い

○　広がりすぎてのトラブルは起こりにくい
その場で柔軟に内容を変えるといったことはしにくい

12

（5）高齢者の生活における自立の姿

・ その人のできる範囲で、生活方法の工夫ができていて、生活支援用具やサービスの活用が適切に行えている状態



作成：中村

生活方法の工夫・道具の活用・生活支援サービスの活用のイメージ

13

2. 発達する道具（生活支援用具）と生活支援サービス

14

（1）高齢者と道具（生活支援用具）の活用

○　様々な道具の存在

例）スタンド型掃除機、掃除ロボット、炭バサミ　etc.

○　様々な道具を「生活支援用具」として活用

15

（2）高齢者と生活支援サービスの活用

○　担い手は多様

地縁団体、NPO法人、社会福祉協議会、協同組合、シルバー人材センター、民間企業・商店などのサービス

・地域の生活支援サービス

・市場分野の生活支援サービス

16

（3）地域の生活支援活動・サービスと市場分野の生活支援サービスの特徴

地域の生活支援活動・サービス

○　担い手が住民、無料か低額での提供、日常の支えあいにつながる関係性が特徴

○　遠慮、プライバシーがまもれるか不安に思う人もいる

17

市場分野の生活支援サービス

○「ハウスクリーニングサービス」、「便利屋」など、多様な業者が多様なメニューで拡大中

○　使いやすさ、地域外からの取り寄せ可

○　費用負担の問題、利用経験者の少なさ、認知度の低さなどもある

18

３．高齢者の生活支援サービス活用上の課題と支援の方法

19

（1）生活支援サービスの地域差と情報の散在

○　サービスのある地域とない地域がある

○　情報が散在し、アクセスし難い

○　発達途上のサービスが多数

・事業者の信用性が不明⇒評価の公表

・高齢者仕様になっているとは限らない

⇒高齢者仕様への転換を働きかける

といった課題

20

（2）活用力の差

○　活用力の差は、
入手可能な情報の量や質、
判断力の強弱、
所得の大小、
サポートの有無　などの要素あり

＊高齢者は、新しいものを取り入れることが不得手
　⇒まずは経験してもらう。経験者とつなぐ
＊費用負担
　⇒「負担感」と「負担できない」問題を別に考える

21

（3）資源アセスメントの重要性

○　現在活用しうる生活支援サービスをできる限り幅広く把握する必要性
　・福祉・介護の活動・サービスにとどまらない。
　・地元＋広域も
○　企業等のイメージアップや社会貢献の観点、からの生活支援サービスも対象
○　今後開発すべきものを明らかにするためにも、重要

必要とする高齢者の視点で
活用できるものをすべて把握する

22

（4）生活支援用具と生活支援サービスの活用環境の整備

○　高齢者が利用しやすくするには、情報や利用への助言がもらえる頼りになる場所・人の存在が必要

○　既存のサービスで対応できない場合は、様々なレベルとそれに応じた方法でのサービス開発が必要

○　これまで十分意識されてこなかった、民間企業や商店等のサービスの活用支援

23

4. まとめ～生活支援ニーズに応えるために

24

自立生活支援は、その人のできる範囲で、生活方法の工夫をし、生活支援用具やサービスをうまく活用できている状態を支えることである

① まず、高齢者の生活に活用できる生活支援用具や生活支援サービスに関する資源アセスメントを行い、幅広く把握することが重要。

② しかし、高齢者の生活支援サービス活用の課題には、サービスの不足や地域差、情報の散在によるアクセスしづらさ、活用力の差がある。

③ そのため、生活方法の工夫、生活支援用具や生活支援サービス情報が必要な高齢者にもらさず届くような環境整備が求められている。

④ 不足するサービスは、地域、市場分野、市町村等幅広い主体によって開発を進める。

⑤ 生活支援サービスのメニューは、「安心」を基盤に「日常的家事」「外出」「交流」「非日常的家事」と「ちょっとしたこと」（「5つのこと」と「ちょっとしたこと」）を備えていることが必要。

⑥ 生活支援サービスの提供には、包括的な方法と単品サービスで対応する方法があるが、それぞれ長所短所があることから、その特徴を踏まえて整備、提供する。

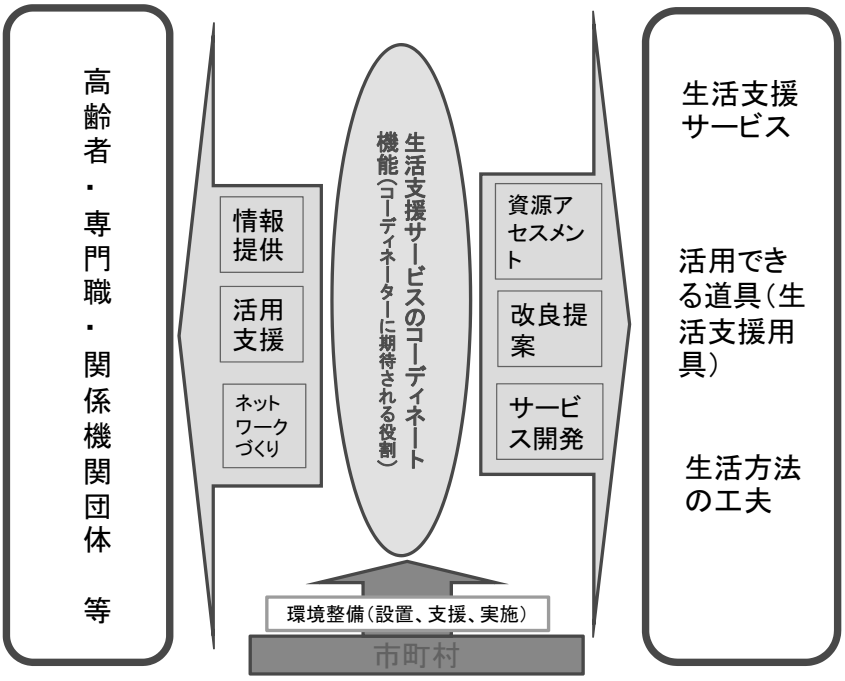
⑦ 一人暮らしや高齢者のみ世帯の場合は、一定頻度の定期的な巡回訪問など安心確保そのものをサービスとして提供することも必要。

25

- 地域の高齢者が最適な生活支援サービスを活用できるような介護予防環境に地域の状態を整えていくことが「生活支援コーディネーター」に求められている

26

生活支援サービスの把握、開発、活用支援イメージ



作成：中村

参考

参　考

＜東京圏と北陸都市での住まいに関する訪問調査＞

2009.9～2010.2

鈴木晃、阪東美智子、大越扶貴、中村美安子『平成21年度～平成23年度科学研究費補助金（基盤研究C）報告書．高齢後期における在宅生活の遂行モデルの検討と加齢対応住宅の基本性能に関する研究』より

- **自立生活に何らかの課題を有すると考えられる「特定高齢者」「要支援」「要介護1」で、地域包括支援センター等が支援している後期高齢単身者**
- **大都市と地方都市を調査地域とし、前者［東京圏］（東京1区1市、神奈川政令2市）と後者［北陸都市］（福井県の1市）それぞれ11事例、合計22事例**

［東京圏］「要支援」9、「特定高齢者」2　計11

［北陸都市］「要支援」5、「特定高齢者」6　計11

- **訪問インタビューにより実施。住宅見取り図を作成し、住まいと生活の仕方を把握した。**

29

参　考

［調　理］

多くは自分で行っているが簡易化されており、会食会や配食サービス、デイサービスでの食事と組み合わせて行われている。

	自　分	サポート　＋　自分	サポートのみ
東京圏　n=11	8	2	1
北陸都市　n=11	10	1	0
合　　計 n=22	18	3	1
		＊サポート：子、ヘルパー等、デイ、配食	

30

参　考

［買　物］

シルバーカーやタクシー利用などにより自分で何とか行うが、「大変」「ほしい物が買えない」という不自由さがある。

	自　分	サポート　＋　自分
東京圏　n=11	8	3
	（うちシルバーカー3）	
北陸都市　n=11	6	5
	（うちシルバーカー3）	
合　　計 n=22	14	8
		＊サポートのみはなし

31

参　考

［掃　除］

掃除機は筋力や握力低下に伴い放棄され簡易化されている。
ヘルパー派遣を受ける12例は全員がヘルパーに依頼している。
17例に物置となり片付けられていない部屋があった。

	自　分	サポート　＋　自分	サポートのみ
東京圏　n=11	1	6	4
北陸都市　n=11	7	4	0
合　　計 n=22	8	10	4
		＊サポート：子、ヘルパー等、デイ、配食	

	片付けられていない物置部屋ある	片付けられていない物置部屋なし
東京圏　n=11	8	3
北陸都市　n=11	9	2
合　　計 n=22	17	5

32

参　考

[洗　濯]

量が少ないため下着のみ手洗いなど、特に〔北陸都市〕において簡易化が見られた。

例）〔北陸都市〕週２回デイサービスの前日、下着だけは手洗いする、その他はたまったら適宜洗濯機で。

33

参　考

［布団干し］

従前の方法で行えているのは１例のみで、布団素材の変更や寝室に広げて日に当てるなどの工夫により対処したり、対応が見つからないままとなっている。

	物干し場に	室内に広げる	布団乾燥機	サポート	干さない
東京圏 n=11	1	4	1	5	0
北陸都市 n=11	＊＊1	3	1	0	6
合　計 n=22	2	7	2	5	6

＊「室内に広げる」には、「ベッドだから干さない」を含む
「干さない」6のうち、夏場は物干し場に干すは3
北陸都市は冬場
サポート：子、ヘルパー、行政の布団乾燥サービス
＊＊干しているようには見えない状態

34

参　考

［入　浴］

〔東京圏〕では、毎日から週3回程度、日中から17時くらいの間の入浴が4例。〔北陸都市〕では、夏場は毎日入る人でも冬場は週1回程度の入浴となっている。要支援では多くがデイサービスや浴場で入浴している。

例）〔北陸都市〕週2回デイサービスで入浴。要支援になる以前、冬場は週1回以下だった。

35

参　考

	週4～7回	週2～3回		週2回以下
東京圏 n=11	8		2	1
		自宅	1	
		デイ	1	
北陸都市 n=11	1		8	2
		自宅	2	
		デイ	3	
		浴場	3	
合　計 n=22	9		10	3

36

参　考

○　入浴・洗濯・布団干し・掃除・調理・買物は、加齢によって生じた不自由さについて方法を変えたりサポートを組み合わせるなどして対応している。

○　入浴・洗濯・布団干し・掃除については、地域性や習慣、個人の嗜好性の違いが大きい。掃除はむしろ体力を要する「片付け」に課題があり、掃除は、「片付け」の困難さへの配慮が必要ではないか。

○　調理は、それまでの経験などが反映されていると考えられる。

○　調理の簡易化は、単身世帯では、一般に行われているものと思われ、高齢単身世帯の特徴とまではいえないかもしれない。

○　事例の多くに買物の不自由さがある。

37